

烏帽子の会

活動報告 《塩尻の里山 なるかみやま 鳴雷山 (1093.5m) 》

《月日》12月26日(土) 《天気》晴れ 《参加者》14名

ほとんど知られていない山だが気になる山名だ。訪れる人もおそらくあまりいないように思われる。地元塩尻市宗賀床尾地区、床尾神社の奥宮が頂上であり、地域では慣れ親しんでいる山のようなのである。毎年8月には伝統行事「鳴雷山の火祭り」が行われ、頂上まで松明を持って登り、雨乞いや豊作を祈願するという。

計画では鳴雷山がメインであるが、少々物足りないため、平出地区を象徴する比叡の山で足ならしをした。頂上からは宗賀地区や中央西線、国道19号が



鳴雷山山頂と床尾神社



鳴雷山頂上にて

記念撮影を早々済ませ、もう一つの目標である久ノ井山に向かった。鳴雷山から砥石地蔵まで戻り、霧訪山方面へ続く比較的平坦な稜線縦走路を進む。南側斜面は松茸山で有刺鉄線が張られていた。30分余りで無名峰頂上に着き、昼食とする。ここも見晴らしは全くないが、小春日和の日差しは心地良い。

床尾神社まで登った道に戻る。かつては日本三大遺跡といわれた広大な平出遺跡に寄り、中山道の平出一里塚を横目に見て岐路に着いた。

(宮澤洋介)

真下に見える。移動して床尾神社に車を止めて鳴雷山に登山開始。この夏に登山道が拡幅整備されて、立派な道が続く。背の高いカラマツなどで見通しは全くきかない。さらに北向斜面の冬の低い日差しでは全くの日影だ。立派な霜柱を見て感動したりしていた。上の方になると昨日降った雪が登山道をうっすらと覆う。途中から昔からの道(整備されていない尾根沿い)に分かれて登った者もいたが、1時間ほどで稜線に出た。ここにある砥石地蔵の祠も新しくなっていた。稜線から西へやや急な笹に覆われた道を5分ほど登ると、床尾神社奥宮のある頂上に出た。頂上の見晴らしは全くない。鳴雷山頂上の立派な看板が立てられていた。



無名峰(久ノ井山)頂上にてパチリ
(参加者は14名)